

・どの子も一ようのように楽しい一日であれ

・収穫も多かれ

・待つ喜の期間も一日も長かれ

十月に入るとカレンダ―をみせて、もう幾つ寝たら汽車遠足と楽しい夢を早くからもたせ、これを機会に各種乗物への関心をも高め、日ごとのりもの遊びへの発展にも配慮。当日は万全を期しての各学級委員四人の付添も、本日に限り、個人のお母さんでなくクラスみんなのお母さんであることを、母子ともによく認識、その線に沿った行動をとる。

どんな階層の子も含む当園としては、先生たち持参のお弁当も努めて平常通りのものを子どもたちのおやつも家庭からはいっさい持参せず園よりりんごとキャラメルを用意

◇当日

いよいよ出発。まだ一度も行ったことのない子もあり、経験ずみの子も幼稚園として一しよに行くのは、また格別にうれしさも増加するようす。話声もいつもよりい

つそういきいきとはずんで駅名を読み合い、窓外の道行く人に手をふっては呼びかけ、とんねるを数え上げるなど、よろこび満ち溢れる遠足風景。同乗の一般人の顔もおのずとほころびる始末。

やがて駅において駅前に掲げられた絵図の説明をうけ、往く道々、浮きつ沈みつするくらげを物めづらしく眺めたり、すごい貝の群生に目をみはり、回転橋を渡って砂場で少憩、楽しい昼食の後、貝ひろいに夢中になったり、キャッキヤツと歓声をあげつつ波とおつかげごっこに興じたり、大自然の砂

場で余念なく砂遊びをしたり、一かどの力士気どりでのお角力ぶりをお母さんたちにみていただいたり、たのしい遊びのいつ果てるとも知れぬ一日。

やがて再び汽車の人となり舞鶴の駅に降りたてば、早くも改札口に並ぶ顔、顔、顔、何れも朝送り出したわが子を案ずる表情、お母ちゃんを手をふる子、だまってに

つと笑いかける子、などなど、それぞれ表情に接して、や々と安堵の胸をなでおろすお母さんたち。

「どうもありがとうございまして」の母の声  
「先生さよなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

くことに  
「どうもありがとうございまして」の母の声  
「先生さよなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

ことに  
「どうもありがとうございまして」の母の声  
「先生さよなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

ことに  
「どうもありがとうございまして」の母の声  
「先生さよなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

ことに  
「どうもありがとうございまして」の母の声  
「先生さよなら」子どもたちの声を耳朶に残しつつ、私のおもい多

## 合同運動会

### 菊田との代

日ごと登園する子どもたちの背後の親心をおもうことまた切。兄弟ともにかえった子、母の手に伴われて帰った子、父の自転車ののってかけていった子、どの子どもどの子も、今宵の夕餉よ楽しかれ、今宵の夢よ円かなれと念じ

(舞鶴幼稚園)

サクサク、サクサク、秋の澄切った空気に冴た鎌の音が溶込むように響いて、見る見る青草がなぎ倒されていく。時どき明るい喚声が其処ここに湧き上る。

今年もまた運動会が直ぐ目の前にやって来たのである。「毎年のことだから思いきってこの草原を何とかしたらどうかしら」  
「薬で焼いて土を盛るといいんだけど」

「大学の運動場には珍しいでしょうね」  
誰の考も同じであらうし、口で言うのは易しい。が毎年実行されず

に年中行事の一つになっている運動会前の草刈である。  
大学生と園児のお母さまがまるで姉弟のようにむつまじく、和気あいあいの運動場ならしは、ほんとうに日本中どの大学を探しても見つからない異風景ではなからうか、当園始つて以来六年間とかく

の非難を浴びつつ、なお此草刈が以然と続けられている由因は、案外こんなところにあるのかもしれない。

そして当日高々と万国旗がはためき、二千坪に垂とする運動場の中央は、白線が目を射るように円を描き、紅白の布が斜めに巻かれた入場門、退場門が晴々と立ち、立派な運動会場が出来上る。幼稚園母の会のバザーは大学生の大きな坊やと幼稚園の小さいお客様で大繁盛する、プログラムは順を追って次々に種目が進んでゆく。中でも毎年人気を呼ぶのは学生と団児のお母様がたとの共同競技である。

この大学の付属というのは幼稚園だけであって、それだけに、学園祭の一つである合同運動会は、園児と学生との間に非常な近親感を覚える。園児が転べば大学生が早速助けに走る。学生が競技をするとき「お兄ちゃんしつかり」といつせいに可愛い声援がある。こうして書いてみると、大、幼稚園一つになっていかにも楽しい行事

であるが、やはりここにも矛盾あり、悩みあり、反省もある。

単独の幼稚園ならば、もう少し幼稚園向きの運動会を催すことが出来るものをと……。

朝九時から、午後四時までの運動会では幼稚園にとつて少し長過ぎると思う。もちろん学生に依頼してプログラムを組むとき、幼稚園の部は遅くも三時には全部種目を終了出来るようにしてはあるのだが、これが単独ですとなればこの五時間をもつと有意義に使えるであろう。時間が長ければ長いほど、おとなの心もゆるみ子どもはそのゆるみに便乗してこの時とばかり我儘の羽をのばして、不規則な行動が多くなる。

バザーの繁昌に反比して子どもこの日一日の生活様式は急変し、健康につながるはずの行事の目的は外れてしまう結果になる。だが運動会の記憶画や、合作の中に満四才の子どもたちまでが、みんな大学生の「パン食い競争」や、「自転車ゆっくり競争」をたくみに表現しているのを見て、

「私は大学のお兄ちゃんと、運動会をしたのだ」というよろこびが強く印象づけられ、大きくなるまで、うれしい思出として残されるに違いない。  
このためにも私もはもつとも  
つと反省し、去年よりは今年、今年よりは来年と一歩一歩前進するよう、合同運動会について研究をしたいと念じている。  
(同朋大学付属幼稚園)

## 秋季運動会の回顧

森 下 正 作

- 一、運動会の目的  
幼稚園教育の一環として体育の方面より日常保育訓練の総練習とすること。
  - 二、父兄と園児と教師と三者一体となり楽しき一日のレクリエーションとすること。
  - 三、幼稚園と家庭との連絡を緊密にし幼児教育の振興に寄与せしむること。
  - 二、運動の種目  
個人的なもの、団体的なもの、遊技、競技などとし、なるべく園児と父兄と共同的なものを選んだ。
  - 三、運動会実施の心得
1. 楽しく、元気に、きまりよくの標語をモットーとして終始整然とおこなうこと。
  2. 競技においては各個人の能力をじゅうぶんに発揮させ過勞に陥らぬよう注意すること。
  3. 審判については勝敗にのみこだわらず一等等と単にことばの上で賞賛し、時には体力に依つて努力した幼児には最後にやるとても一着と呼んで褒めてやるようにし優越感や劣等感を持たせぬよう注意すること。
  4. 賞品は運動会全部終了後全員平等に賞品を授与して、少しも